＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
孫田　佳奈（まごた かな）
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【書名】都市で進化する生物たち
【著者】メノ・スヒャルトハウゼン
（岸由二、小宮繁 訳）
【発行】草思社

皆さんは「生物の進化」を見たことがありますか。いやいや、生物は手つかずの自然の中で長い時間（数千年、数万年）をかけて進化するのであって、たかが100年しか生きられない私たちがこの目で見ることはできない…と考えるのがふつうでしょう。しかし、今まさに起こりつつある生物の進化を観察できる場所があるのです。それは皆さんが暮らしている「都市」です。都市化は自然破壊を伴うことから、従来の生物の生育環境を減少させます。一方で都市化は、生物たちがそれまでに経験してこなかった新しい環境をもたらします。従来の環境と新しい環境の差異こそが、生物の進化を促す大きな原動力となります。それによって、数年もしくは数十年という短い時間における生物の進化が可能になるのです。皆さんも「新種の誕生という歴史的イベント」の目撃者になれるかもしれません。

【書名】食虫植物：進化の迷宮をゆく
【著者】福島健児
【発行】岩波書店

「食虫植物」と聞いて、何を想像するでしょうか。任天堂スーパーマリオシリーズのパックンフラワーでしょうか。パックンフラワーは魔法によって意思をもった凶暴な人喰い植物であり、ゲーム中では踏んだらアウトですね。モデルとなったのは北米原産のハエトリソウという植物でしょう（Google先生にきいてみてください、実に似ています）。そんな不思議な植物がこの地球上には多数存在するのです。食虫植物は光合成もできるのに、わざわざ虫を捕獲して消化することで生きるためのエネルギーを得ているのは、どうしてなのでしょうか。彼らには虫を感知するための目や耳はありません。動物のような口もなければ、食べ物が放り込まれるべき胃や腸もないのに、どのように虫を食べるのでしょうか。この本を読めば、“植物界の異端児”とも言える食虫植物の生き様に魅了されること間違いなしです。

【書名】知っておきたい日本の絶滅危惧植物図鑑
【著者】長澤淳一、瀬戸口浩彰
【発行】創元社

絶滅する可能性が高い生物種のことを「絶滅危惧種」と言います。日本ではなんと3716種の生物が絶滅危惧種に指定されています（2020年）。ライチョウやトキ、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコなどの鳥類・哺乳類が絶滅危惧種に指定されていることは皆さんもご存知でしょう。しかし、植物についてはどうでしょうか。絶滅危惧種に指定されている植物は2030種もいるのですが、すぐに思いつくでしょうか。本書では、マイナーだけど多様な植物たちが綺麗な写真で紹介されています。色鮮やかだったり複雑な形をしていたり、日本列島には不思議な植物たちがたくさんいるのです。そんな彼らの生き様を、少しでも知ってくれたら嬉しく思います。“推しの植物”をぜひ見つけてみてください。

【書名】愛なき世界
【著者】三浦しをん
【発行】中央公論新社

本書は、洋食屋で働く青年がＴ大学の大学院生に恋する物語です。青年は昼食のデリバリーで大学の研究室に出入りするうちに、研究オタクな大学院生に好意を抱くようになっていきます。しかしこの恋には無敵のライバル（！）がいるのです。著者は本作品の執筆するにあたって、実際にとある研究室を取材したそうです。そのため、作中の細やかな描写はまさに「理系研究室あるある」ばかりです。研究室には、いわゆる変人のボスがいて、厳しくも優しい仲間たちがいます。楽しいイベントもあれば、たまには大ハプニングだって起きます。目の前の出来事や実験結果に一喜一憂しながら、それでも少しずつ少しずつ研究を進めていく、大学院生の日常が描かれています。２人の恋路が気になる方も、研究室の日常が気になる方も、ぜひ一読してみてください。